

馬の獣医師の仕事について

～体験して学んだこと～

～産業獣医師の不足～

2022年度の集計結果では全体が40,455人の中、産業獣医師は4,232人。わずか全体の30%しか占めていない。わずかなその中でも300人だけが馬の獣医師。

～日本の馬と歴史～

① 日本の馬

乗用馬のハフリンガー、競馬に使われるサラブレッド、ペット等に使われるポニー、そり等を曳く重種馬と、日本に元から在来している在来馬などが生息している。

② 馬の歴史

祖先…エオヒップス

利用方法…縄文時代には狩りの獲物として食料に利用され、その後は家畜化、乗用手段や競馬の馬などに利用されていた。

～馬の診察内容～

- ① 聴診…心臓、気管、肺、おなかなどを聴診器で音を聞く診療方法。
- ② 直腸検査…馬の直腸に手を入れ、直腸越しに臓器を触診する検査方法。
- ③ 問診…飼育しているスタッフに、どこか気になるところはあるか、質問をして診察する方法。
- ④ 往診…獣医師が依頼があった牧場に出張して診療する方法。そして馬の獣医師で一番多い診療方法。

～手術室の設備と治療器具～

手術室の設備…麻酔をかけたときに馬が倒れてけがをしてしまう恐れがあるため、柔らかいクッション素材の床と、壁で麻酔が効いた馬を挟んで立っていられるように工夫した設

備や、手術台の前足等を乗せる台、首を乗せる台は同じように柔らかいクッション素材になっている。

治療器具…歯を治療するために使う器具、歯櫛と開口器。歯櫛は伸びて尖り、危険な歯を削るためのおろし器のような金属でできた器具。

開口器は、馬の歯の治療をするときにずっと口を開けていられるようにした器具。上のくぼみに前歯をはめ、器具を噛むようにして利用する。

～感想～

私の夢は獣医師です。

獣医師の中でも小動物を見る獣医師になりたいと思っていました。でも、ネットで調べてもでてこないような貴重で珍しい話を聞き、体験をして、将来の夢を考え直す機会になりました。

その話や体験の中で印象に残ったことは、2つあります。

1つ目は、馬の治療についてです。実際に大学の馬の手術室を見せてもらいました。病院の手術室にはない特別な装置や手術台、工夫された造りになっていました。

馬も手術するときには麻酔をかけます。その時に馬が倒れてしまうので、安全なように床がクッション素材になっていました。また、馬が倒れないように壁と壁で挟む、ということも聞いてとても驚きました。その後手術台に運ぶためにクレーンのような機械で馬を運びます。その手術台もクッション素材です。手術をするにも大掛かりで、今回の体験までは、動物が人間と同じ繊細な扱いを受けているとは知らず、獣医師さんの気遣いにも感動しました。

2つ目は、馬の獣医師の仕事がSDGsに関係するということです。

鹿児島で育てられている馬の種類の中に「トカラ馬」という種があります。獣医師はトカラ馬のような天然記念物の保護活動も行っていて、その保護活動の内容がSDGsにつながるということを知って、トカラ馬という種を初めて知ったし、まさか獣医師の仕事がSDGsにつながるとは思ってもみなかったのでも興味深く、視野が広がりました。

また、大学の馬術部に行って実際に馬を間近で見ることができました。馬が餌を食べていたり鳴いていたりして、たくさん観察することができました。

今まではあまり知らなかった馬のことだけでなく、産業獣医師の仕事も知ることができたため、これからも今回のような機会を利用してもっと知識を広げていきたいです。